

安心を守る税金

船橋市立七林中学校3年 星 実花

二〇二六年の四月から、法人税、たばこ税などが「防衛関係費」のために増税されると聞いた。防衛関係費は国の歳出総額の中で四番目に高い割合だが、私は国の防衛の費用という事しかわからない。そもそも、戦争をしないと誓った日本は防衛を強くする必要があるのだろうか。法人税は、将来、私が働くようになったときにも身近に関わる税金だ。増税するからには、私たちに良い影響があることにお金を使ってほしいと思う。そのため、防衛関係費は私たちどのように結びついているのか調べてみようと思った。

防衛省・自衛隊のサイトによると、この税金は自衛隊員の入件・糧食費や燃料、新しい装備品の購入などに使われているらしい。費用の使い道は納得できたが、なぜ災害時などではないのに増税するのかは疑問のままだった。しかし、読み進めると、自衛隊は国の「抑止力」を守っているという文を見つけた。抑止力とは、「攻めさせない力」だ。今の日本の平和な状況が崩れることを未然に防ぐためには、強い武器を持つことで、日本に攻めることを思いとどまらせることが一番重要だということだろう。私は今まで、戦争をしないと誓ったのなら、戦車や戦闘機を購入し自衛隊を強くする必要はないと思っていた。しかし、これは言いかえれば経済的にも物理的にも守りを固める必要が高まったということだ。むしろ平和を誓ったからこそ、自衛隊は強くなければいけないのだと思う。また、今回の増税は、抑止力の強化に加えてアメリカの負担を軽減する目的もあったという。防衛関係費は、今の私達だけでなく未来の私達も守る重要な税金の使い道だとわかった。

私の住んでいる地域には自衛隊の駐屯地で毎年開催される夏まつりがある。多くの人が訪れ、自衛隊員の方々による和太鼓の演奏はとても迫力があって大人気だ。しかし、何年か前に、この和太鼓の演奏は「税金の無駄」なのではないかと意見した人がいたらしい。

事実、この演奏は防衛関係費の内の広報・募集活動費、つまり私たちの税金で支えられている。しかし、私はこのような使い道もまた、国民を守るために使われていると思う。

私は和太鼓の演奏を聞いたときその力強さから「この人たちなら緊急事態でもしっかりと助けてくれそうだな」と安心することができた。この活動は、地域の人々と交流し、災害などが起きた時に信頼してもらうために行われていると思う。きっと私は、緊急時に知らない人しかいなかつたら怖くて信用できない。しかし、自衛隊の迷彩が見えれば安心がぐっと高まるだろう。防衛関係費は災害時だけでなく普段の生活でも安心を与えてくれる、「安心を守る」税金の使い道だとわかった。

普段は意識しないところでも、税金は私たちの安全や安心に役立っている。これからは税金の使い方を知り、納めることの意味を考えて納税したいと思った。